

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>「参加者の満足度」と「安心して育児ができる人の割合」は前年度と比較すると増加している。子育ての現状が複雑多様化している中、保育者の育児不安や子育ての孤立化を防ぎ、増加しているニーズにも対応できるよう本事業の充実を図っていく必要がある。また、地域子育て支援センター、地区民生児童委員や主任児童委員と協働して地域の育児環境整備に取り組んでいく必要がある。</p>
「見直し」 「改善」案	<p>参加者の満足度は高い。 NPO等が同様の事業を行っており、情報提供も重要</p>